

図書便り（５月号）

令和元年（２０１９年）５月２３日発行
文責　山瀬

～中間考査です～

新元号「令和」となり、もうすぐ一か月が経とうとしています。学校では、中間考査が行われ、黙々とプリントやノートに向き合う姿が見られました。一年生は、高校生になって初めての中間考査ということもあり、緊張した面持ちの中、一生懸命取り組んでいた様子でした。中間考査が終われば、いよいよ定通体育大会の練習が始まります。全学年が、バドミントンや剣道の練習を行います。本番は６月９日（日）です。皆さんが活躍することを期待します。



✿ 新着図書案内 ✿

今回は、読み終えた後に笑顔に包まれる本を紹介します。

『絵本処方院ウサミの謎カルテ』

古都　こいと（著）



院長のガラが悪いことを除けば、患者に評判の「ウサミ医院」。そのもう一つの顔は、患者の「心」を治すべく「絵本」を処方する「絵本処方院ウサミ」。夜だけ開院する絵本処方院には、様々な悩みを抱えた人がやってくる。言葉の優しさと人の温かさに涙こぼれる短編集。

『それしかないわけないでしょう』

ヨシタケ　シンスケ（著）



大人になったときに未来に待っているのは、大変なことばかり。おにいちゃんはそう言うけど、それって本当!?それしかないわけないでしょう！一つの見方にとらわれない。考え方ひとつで楽しい未来がたくさん見えてくるはず。

『ペンギンうらない』

坂崎　千春（著）



ペンギンが占うこの本は、気軽に試せる「ヒント本」。心に浮かんだ問いを思い、ページをめくるとペンギンがアドバイスをくれる。２年生のＫさんは、試験に向けてどう勉強するか尋ねると、「山あり谷あり」とアドバイス。意外に当たっているかもと大盛り上がり。

『＃名画で学ぶ主婦業』

田中　久美子（著）



眠らない我が子・毎日続く家事・自由奔放な夫・義母とのすれ違い…止まらない心の叫び。主婦のツイートと名画にこめられた想いやエピソードが、なぜか、重なってくるおもしろさ。“主婦の声”に共感しつつ、必ず目にしたことがある著名な絵画の数々が楽しめる一冊!